

foreword

刊行にあたって

国際長寿センター (ILC-Japan) では、設立以来機関誌「プロダクティブ・エイジング」や「アドボカシー」の日・英版発行を通じて、また近年はホームページも活用して、国内外に向けた情報の提供を行ってまいりました。

国際的なネットワークを通じて行ってきたこれらの活動は、ILCの重要な使命であり、またILCだからこそ果たしうる業務として、皆様から評価していただけるようになりました。

このたび、これまでの経験と実績を生かして、新しい情報誌「長寿社会グローバル・インフォメーション ジャーナル」誌を刊行いたすはこびとなりました。

世界に先駆けて少子超高齢社会への道を進んでいることから、日本の経験や政策に世界の国々からの注目が寄せられております。

しかし日本人自身は、前例のない社会構造の変化に対して、制度や仕組み、人々の意識が追いついていかないことによる、混迷のさなかにあるように思います。

まさに氾濫する情報の海で、目指すべき方向性を見失って漂流しているようにも見えるのです。国の内外の情報を瞬時に入手できる今だからこそ、多くの情報をどのように受け止めるか、またいかに自分の暮らしに引きつけて考えることができるか、「情報」の価値を読む力が求められております。

言葉や風土はもちろん文化や歴史、人々の性格や価値観も違う諸外国の情報を読みとるにあたっては、情報そのものだけでは見えてこない、その国に暮らす人の「暮らしの視点」への理解が不可欠です。

それは同時に、日本の情報を世界に発信するにあたって、細心の注意や配慮が必要であることを意味しています。

「長寿社会グローバル・インフォメーション ジャーナル」の刊行を通じて、改めて「情報」の価値を考え、長寿社会における一人ひとりの生活の質を捉え直すきっかけとさせていただければ、これにすぐる喜びはありません。

ILC-Japan 理事長
森岡 茂夫



森岡 茂夫
ILC-Japan 理事長



Robert N. Butler, M.D.
ILC-USA 理事長

人類がかつて経験したことのない高齢化は、地球規模で人口構成に大きな変革をもたらしている。

世界すべての国々において共通の課題であり、とりわけ日本において顕著なこの長寿革命は、同時に人類の偉大な達成の成果でもある。

人口高齢化と同時に起こる少子化は、ヨーロッパやオセアニアそして日本で実際に起きていることであり、もし移民がいなければカナダやアメリカでも現実のこととなる。

それに対しては、出生率向上や移民受け入れ政策を唱える専門家もいるが、まず現実に取り組むべきは高齢者の力を活用し、プロダクティブ・エイジングを可能にする環境づくりであろう。

人生を長くしかも有意義に過ごすためには、プロダクティブに社会とかかわることが重要であることは、さまざまな研究により証明されている。

19世紀イギリスの経済学者であるジョン・スチュワート・ミルは、生産性には限界があることを意味する「定常型社会」に関する著書を残している。

社会とのかかわりを考えるにあたっては、「働くために生きる」アメリカと「生きるために働く」ヨーロッパとが対比されるように、アメリカ的な思考方法とヨーロッパ的な思考方法がある。

人口高齢化と余暇の増大は、アメリカ的な拡大・成長神話や物質主義へのひたすらな邁進に、歯止めをかけるものと定義することもできよう。

余暇の増大により、社会へのかかわりの機会が増大すること、選択の自由が増えることなどは「豊かさの定義」や「生活の質」の見直しにつながるものと確信する。

ILC-Japanがこのたび発行する「長寿社会グローバル・インフォメーション ジャーナル」が、世界規模で進むこの歴史的な長寿革命における新たな価値の創造に関して、画期的なスポークスマンとしての役割を担ってくれることを、期待したい。

ILC-USA 理事長
Robert N. Butler, M.D.